

平成19年2月期 航空特殊無線技士 試験問題

法規 12問 } 24問 1時間
無線工学 12問 }

法 規

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)すること。

〔1〕 次の記述は、電波法の目的に関する電波法の規定である。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「この法律は、電波の公平かつ□な利用を確保することによって、公共の福祉を増進することを目的とする。」

- 1. 適正
- 2. 有効
- 3. 能率的
- 4. 合理的

〔2〕 次の記述は、電波法施行規則に規定する「航空用DME」の定義について述べたものである。□内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「航空用DMEとは、960MHzから1,215MHzまでの周波数の電波を使用し、航空機において、当該航空機から地表の定点までの□を測定するための無線航行業務を行う設備をいう。」

- 1. 飛行距離
- 2. 飛行時間
- 3. 地表距離
- 4. 見通し距離

〔3〕 次に掲げる者のうち、無線従事者の免許が与えられないことがある者はどれか、正しいものを次のうちから選べ。

- 1. 刑法に規定する罪を犯し罰金以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又はその執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
- 2. 電波法の規定に違反し、3箇月以内の期間を定めて無線通信の業務に従事することを停止され、その停止の期間の満了の日から2年を経過しない者
- 3. 無線従事者の免許を取り消され、取消しの日から2年を経過しない者
- 4. 日本の国籍を有しない者

〔4〕 無線従事者がその免許を取り消されることがある場合に該当しないものは、次のどれか。

- 1. 不正な手段により無線従事者の免許を受けたとき。
- 2. 著しく心身に欠陥があって無線従事者たるに適しない者に該当するに至ったとき。
- 3. 電波法若しくは電波法に基づく命令又はこれらに基づく処分に違反したとき。
- 4. 失そう宣告の届出があったとき。

〔5〕 総務大臣から臨時に電波の発射の停止の命令を受けた無線局が、その発射する電波の質を総務省令に適合するように措置したときは、どうするか、正しいものを次のうちから選べ。

- 1. その旨を総務大臣に届け出て、電波の発射を開始する。
- 2. 直ちにその電波を発射する。
- 3. その旨を総務大臣に申し出る。
- 4. 他の無線局の通信に混信を与えないように確かめた後、電波を発射する。

〔6〕 航空機局の免許人は、その住所を変更したときは、どうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

- 1. 免許状を総務大臣に提出し、訂正を受ける。
- 2. 1箇月以内に総務大臣にその旨を届け出る。
- 3. 2箇月以内に総務大臣にその旨を届け出る。
- 4. 速やかに総務大臣にその旨を申告する。

法

〔 7 〕 次の記述は、航空移動業務の無線電話通信における呼出事項を無線局運用規則の規定に沿って掲げたものである。□ 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

相手局の呼出符号 3 回以下
自局の呼出符号 □

- 1 . 1 回
- 2 . 2 回
- 3 . 2 回以下
- 4 . 3 回以下

〔 8 〕 航空移動業務におけるノータムに関する通信の優先順位について、無線局運用規則にはどのように定められているか、正しいものを次のうちから選べ。

- 1 . 緊急の度に応じ、遭難通信に次いでその順位を適宜に選ぶことができる。
- 2 . 航空方式に関する事項の場合は、無線方向探知に関する通信に次いでその順位を適宜に選ぶことができる。
- 3 . 航空機の安全運行に関する通信に次ぐ順位としなければならない。
- 4 . 緊急の度に応じ、緊急通信に次いでその順位を適宜に選ぶことができる。

〔 9 〕 免許人又は登録人（包括免許人又は包括登録人を除く。）は、除外規定がある場合を除き、無線局の免許又は登録（以下「免許等」という。）を受けた日から起算してどれほどの期間内に、また、その後毎年その免許等の日に応当する日（応当する日がない場合は、その翌日）から起算してどれほどの期間内に電波法に定める電波利用料を国に納めなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

- 1 . 1 0 日
- 2 . 3 0 日
- 3 . 1 箇月
- 4 . 3 箇月

規

〔 10 〕 無線電話による自局に対する呼出しを受信した場合において、呼出局の呼出符号が不確定であるときは、どうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

- 1 . 応答事項のうち相手局の呼出符号を省略して、直ちに応答する。
- 2 . 応答事項のうち相手局の呼出符号の代わりに「貴局名は何ですか」を使用して、直ちに応答する。
- 3 . 応答事項のうち相手局の呼出符号の代わりに「誰かこちらを呼びましたか」を使用して、直ちに応答する。
- 4 . 呼出局の呼出符号が確実に判明するまで応答しない。

〔 11 〕 次の事項は、遭難航空機局が遭難通報を送信する場合の送信事項を示したものである。無線局運用規則の規定に照らしこれに該当しないものはどれか。

- 1 . 遭難した航空機の識別又は遭難航空機局の呼出符号若しくは呼出名称
- 2 . 遭難した航空機の乗員の氏名
- 3 . 遭難した航空機の位置、高度及び針路
- 4 . 遭難の種類及び遭難した航空機の機長のとらうとする措置

〔 12 〕 無線局が無線電話の機器の試験中、しばしば自局の発射しようとする電波の周波数その他必要と認める電波の周波数により聴守を行わなければならないのは、何を確かめるためか、正しいものを次のうちから選べ。

- 1 . 他の無線局から停止の要求がないかどうか。
- 2 . 「本日は晴天なり」の連続及び自局の呼出名称の送信が 1 0 秒間を超えていないかどうか。
- 3 . 受信機が最良の感度に調整されているかどうか。
- 4 . その電波の周波数の偏差が許容値を超えていないかどうか。